

## 環境項目

●**ダイオキシン類** ダイオキシン類は有機化合物が塩素の下で 300°C~500°C程度の温度で加熱されるときに発生します。例えば、一般廃棄物焼却、金属製錬、自動車、たばこ、山火事、野焼きなどで生成、排出され、水に溶けにくく脂肪などに溶けやすい性質をもっています。

●**ばいじん** 物が燃えた際に発生・飛散する微細な物質のことを指します。

●**硫黄酸化物** 石油や石炭など硫黄分が含まれる化石燃料が燃える時に発生し、ぜんそくや酸性雨の原因になると言われています。

●**塩化水素** 塩化ビニール樹脂の燃焼の際に多量に発生するもので、大気を汚染するだけでなく、焼却炉の劣化にも影響します。

●**窒素酸化物** 窒素酸化物は、物の燃焼や化学反応によって生じる窒素と酸素の化合物で、主として一酸化窒素と二酸化窒素の形で大気中に存在します。

発生源は、工場・事業場、自動車、家庭等多種多様である。発生源からは、大部分が一酸化窒素として排出されるが、大気中で酸化されて二酸化窒素になります。

●**一酸化炭素** 燃料等の不完全燃焼により生じ、自動車が主な発生源とされている。一酸化炭素は、血液中のヘモグロビンと結合して酸素運搬機能を阻害するなど健康へ影響を及ぼすほか、温室効果のあるメタンの寿命を長くします。

環境基準が設定されているほか、大気汚染防止法に基づき自動車排出ガスの中の一酸化炭素の排出量について許容限度が定められ、規制が行われています。

●**浮遊粒子状物質** 大気中に浮遊する粒径が 10 $\mu\text{m}$ (1 $\mu\text{m}$ は 1mの 100 万分の 1)以下のもの。※ $\mu\text{m}$ (マイクロメートル)浮遊粒子状物質の発生源は、多種多様で、自然界に由来するものとしては、風により地表から舞い上げられた細かな土壌粒子(代表的なものとしては、春先に中国大陸から風で運ばれてくる**黄砂**)、火山の噴火により上空に吹き上げられた火山灰、海水が蒸発したあとに残る海塩粒子などがあります。人工的なものとしては、工場や事業場、自動車、船舶などで使われる燃料などが燃焼する過程で「すす」などが発生するほか、自動車の走行により道路面から土砂などが舞い上がったりします。